

## 「お手紙」の授業構想

### 1. 音読を軸に読む

教科書の手引に

#### こえに出して

かえるくんとがまくんが、とてもなかよしだというところは、どんなところで分かりますか。ふたりの気持ちを考えながら、こえに出して、読みましょう。

とある。音読を軸にかえるくん、がまくんの気持ちを読み取る教材ということだろう。

国語の授業における「音読」は、もっともっと大事にされてよいと考えている。

辻 昭五先生は、

「教材文がすらすら読めるようになったら、読み（読解）の指導の70%は達成した」と考えてよいのではないか。」

と言っておられる。

鳥山敏子さんも「からだで読む」授業の大切さを言われている。（「賢治の学校」2）

「よだかの星」の鷹がよだかに改名を迫る場面

「……このシーンを、自分が鷹になって、声に出して読んでいくと、よだかを嫌い、いじめの鷹の心根が、自分の体を通して激しくあらわれてきて、ハツとさせられる。自分のなかにひそんでいるいじめの心情が、はからずもほとばしり出てくるからだ。そのほとばしりにからだをまかせると、からだのなかにためこんでいた怒りが噴き出してくる。……それほと賢治のことは、声に出したことばの意味とは別に、からだ、魂がゆさぶられてしまうのだ。」

「お手紙」という教材も、がま、あるいはかえるの言葉を声に出してみることで、その時々感情が、からだをとおして実感をともなって読めていくように思う。

授業で扱う教材の次の場面で考えてみよう。

それから、かえるくんは、がまくんの家へもどりました。

がまくんは、ベッドでお昼ねをしていました。

「がまくん。」

かえるくんが言いました。

「きみ、おきてさ、お手紙が来るのを、もうちょっとまってみたらいいと思うな。」

がまくんへの手紙をかたつむりに頼んで、もどってきたかえる君は「がまくん」と声をかける。ここはどんな声で語りかけているのだろうか？

明るく、にこにこして言っているという一般的なイメージしか教師が持っていなければ、子どもの読みへの働きかけも「元気に読めたね」「もっとうれしそうに読んで。」といったやはり一般的な助言しかできない。

その前の叙述には「大いそぎで家に帰りました。」「家からとび出しました。」「すぐやるぜ」とある。夢中になって手紙を送る段取りを整えてきたかえる君のイメージとつなげれば、ドアを開けるなり、勢いよく「がまくん！」と叫んだ、という読みも成り立つ。かけよって、がま君をゆりおこしながら「がまくん！」とせきたてるように言ったとも読める。逆に、すっかり手はずを整えて自信満々で、にんまりしながら枕元に寄って「が、ま、くん。」とゆったり語りかけたとしてもいい。こうした多様な読みを教師が持っていれば、子どもの読みに具体的に対応できる。

## 2. 音読を軸とする授業 基本的な1時間の構成

- ①本時の場面の粗筋の確認と学習課題の設定
- ②範読（全文または本時の学習範囲）
- ③音読練習（個人・二人組、全体練習）
- ④課題についてのひとり学習
- ⑤課題についての話し合い学習
- ⑥まとめとしての音読（代表、または一斉読み）

## 3. 授業展開のイメージ 1の場面を例に

### ①1の場面を各自、あるいは斉読する

「がまくんは、げんかんの前に～ふたりとも、かなしい気分で、玄関の前にこしをおろしていました。」

### ②二つの挿絵を使って、この場面の最初と最後のかえるくんの姿の違いを確かめ、追求課題を具体的につかませる。

T かえるくん、がまくんの家へやってきたとき、どんな顔してた？

C ふつうの顔

C がまくんがしょんぼりしてるのを見てびっくりしている

T 1の場面の終わりでは、かえるくん、どんな顔になっている

C かえるくんも悲しそう

C がまくんの話聞いて、かえるくんまで悲しくなったん

T どうしてかえるくんまでかなしくなったんだろうね。

それを今日のみんなの課題にしよう。

### ③二人が言ったことばをたしかめてみよう

- ・それぞれの「 」がだれの言葉か読みながら確かめる。

※黒板にも会話文のカードを貼り付けていく（話の筋が見えるように）

### ④役割を決めて読んでみよう

- ・列のとなりどうしで、がま、かえるの役を決める。

T が地の文を読み、子どもはそれぞれの役の文を読みながら一斉読み

役を交代して読む

- ・子どもたちが地の文を読み、教師と児童の代表のかけあいでやってみる

- ・となりどうしで会話文だけ読み合ってみる

※子どもたちの音読が棒読みになっていたら、一部の会話だけ取りあげて手入れをしながら進める。子どものいい読みを拾って、みんなに広げていく

※シチュエーションを具体的にしてみる

- ・がまくんとかえるくんは向かい合って話している？それともがまくんは違うところ見てる？

### ⑤「ふたりとも、かなしい気分でこしをおろしていた」

がまくんは何がかなしかったのかな、かえるくんは何がかなしかったのかな、少し自分たちで考えてごらん

※ ノート、あるいは吹き出しプリントを用意して書かせる

### ⑥みんなの読みを発表し合う

※どの子も書いているのだから、手を挙げた子を指名という形より、列ごとに言ってもらおうとか、できる限りみんなが発言できる場にしていく。

※私の読みとして

かえるは、「だれも、ぼくにお手紙なんか」の言葉にドキッとしたのではないか。「親友と言いながら、自分もがまくんにお手紙なんか書かない一人だったんだ」と、自分を責める思いでいたたまれなかった、そういう悲しさを含んでいる。

⑦最後にもう一度読んでみよう。

- ・ T地の文 児童代表2名でやってみる
- ・ 各自めいめいに全文読み